

教育研究業績書

2024年05月15日

所属：生活環境学科

資格：非常勤講師

氏名：岩田 章吾

研究分野 建築設計, 建築計画, 建築論, 近代建築史	研究内容のキーワード 建築, 設計, ミース・ファン・デル・ローエ
学位 博士(工学), 修士(工学), 修士(Science), 学士(工学)	最終学歴 神戸大学大学院 自然科学研究科 地域空間創生科学専攻 博士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. メーリングリストを活用した設計課題相談所	2010年9月～現在	設計演習の課題に対する授業時間外の質疑をメールにて受け付け、そこでのやり取りを受講者全員で共有することで、問題意識などの共有をはかる。
2. テーマの実現のための実践的演習	2009年9月～現在	与えられたテーマに対するソリューションに関して、その実現のための技術的探求を行わせることで、デザインと技術の統合の難しさや面白さを理解させる。
2 作成した教科書、教材		
1. テキスト建築の20世紀	2009年12月30日発行	20世紀の都市と建築のマクロ的な視点と一人の建築家や作品に注目するミクロな視点を交錯させながら、その時代のうねりを伝える。共著
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. JIA近畿支部オープンスクール講師	2010年7月～現在	「時代の写像としての建築」と題した講義において、近畿圏の建築系学生に、建築と時代精神の関係について講義した。
2. 学生のインターンシップの受け入れ	2007年8月～現在	実際の建築設計の場での経験を通じて、建築の社会的役割や、その意義を理解させた。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 一級建築士	1992年2月7日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. “International Master Class ‘Form and the City’ --- “The Power of South” への参加	2007年5月から2007年6月	International Architecture Biennale Rotterdam 2007のプログラムのひとつとして世界中の建築系大学院生を集めたワークショップに関西大学の大学院生の指導者として参加。発表作品は佳作となった。(新建築にレポート掲載)
2. Columbia University Graduate School of Architecture, Planning and Preservation 客員研究員	2000年6月から2001年5月	同大学のJoan Ockman教授の指導の下レポート「Montage the critical approach toward the epoch by Adolf Loos, Mies van der Rohe, and Rem Koolhaas」作成
3. Columbia University Graduate School of Architecture, Planning and Preservation 留学	1999年6月から2000年5月	Master of Science in Advanced Architectural Design修了
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. テキスト建築の20世紀	共	2009年12月	学芸出版	建築史の講義だけでなく、建築論、建築造形論などの講義などにも活用できるように近代建築成立をその背景を含めわかりやすく解説
2. 研究論文集 日独百年の建築・都市計画における相互交流 Dream of the Other 彼岸の夢	共	2008年3月	神戸大学21世紀COEプログラム	ドローイングにおけるミースのドイツ期とアメリカ期の表現の差異を分析・考察

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
3. International Master Class 'Form and the City' --- "The Power of South	共	2007年10月	Berlage Institute, Pact op Zuid	Internationa Architecture Biennalre Rotterdam 2007のプログラムのひとつとしてベルラーヘ・インスティテュートで開催されたワークショップ（移民の流入などにより問題を抱えるロッテルダム南地区の各所に対する改善プログラムを提示）の記録
2 学位論文				
1. ミース・ファン・デル・ローエのモニタージュと空間表現についての研究	単	2006年9月	神戸大学大学院	ミースのモニタージュドローイングの分析を通じて、そこに見られる彼の空間理念を分析・考察
3 学術論文				
1. 大和棟の家（審査あり）	単	2018年3月20日	日本建築学会作品選集2018	この住宅は奈良の西、昭和30-40年代に沿線開発された住宅地に位置する。奈良地方に特有の民家形式である大和棟の形態を引用しながら今日的住まいを作り出した。かつての風景を再生するという意図から勾配など外観のフォルムやスケール感は伝統的な大和棟にならった。一方で、架構や内部空間は今日的な解釈を行った。従来の大和棟は急勾配の主屋と緩勾配の落棟という下屋根が上屋根に従属するような形であったが、この住宅では、重なり合う二つの屋根を等価に扱い、またその関係を空間化することで多様なスケールと多様な場を内包させることを意図した。
2. えいの里保育園（審査あり）	単	2013年3月20日	日本建築学会 建築雑誌増刊作品選集2013	明石市江井島地区に新設された90人規模の保育園である。子供たちの日々の大半を過ごす保育園を「みんなですぐすおきなおうち」と位置づけた。園庭をコの字型に囲む木造平屋を基本とし、そこに木造仮構の大屋根をかけることによって大きなおうちとしてのイメージを象徴的に表現した。また、園庭側はすべて開口とし、軒先を大きく出すことによって、風の道を作り、夏場でも空調に頼らず快適に過ごせる空間とした。
3. ミース・ファン・デル・ローエの内観モニタージュにおける外部空間表現について（査読付）	共	2011年1月	日本建築学会 計画系論文集	ミースのモニタージュドローイング分析から、その内部空間と外部空間の関係を明らかにし、その建築的の意味を考察
4. ミース・ファン・デル・ローエの内観モニタージュにおける空間表現の形式的特質について（査読付）	共	2009年3月	日本建築学会 計画系論文集	ミースのモニタージュドローイングの分析から、その概念表現としての特質を考察
5. ミース・ファン・デル・ローエのモニタージュ表現とその特質に関する研究（査読付）	共	2006年9月	日本建築学会 計画系論文集	ミースのモニタージュドローイングの全数を調査し、その傾向、歴史的な変遷を分析
6. 言説に見るミース・ファン・デル・ローエの建築理念に関する研究（査読付）	共	2006年5月	意匠学会編『デザイン理論』	ミースの言説の分析を通じて、彼の建築理念の歴史的変遷を分析
7. ミースのインテリア透視図のモニタージュに見る内外空間の表現に関する研究（査読付）	共	2006年3月	神戸大学大学院自然科学研究科紀要	ミースのモニタージュドローイングの分析を通じて、彼のドローイング表現の特質を概括
8. ミース・ファン・デル・ローエのモニタージュに関する研究（査読なし）	共	2004年8月	日本建築学会 学術講演梗概集F-2 建築歴史・意匠	ミースのモニタージュドローイングを全数調査しその傾向と歴史的変遷を概括
9. 「サヴォア邸」の批評としての「ボル	共	2003年8月	日本建築学会 学術講演梗概集F-2	レム・コールハースによる「ボルドーの家」をル・コルビュジェによる「サヴォア邸」の形式を引用した近代建築批評として読解

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
<p>「ドーの家」(査読なし)</p> <p>10. ミース・ファン・デル・ローエの時代認識の変遷に関する研究(査読なし)</p> <p>11. 'Montage -The critical approach toward the epoch by Adolf Loos, Ludwig Mies van der Rohe and Rem Koolhaas' (査読なし)</p>	<p>共</p> <p>単</p>	<p>2003年6月</p> <p>2001年5月</p>	<p>建築歴史・意匠</p> <p>日本建築学会 日本建築学会近畿支部研究報告集</p>	<p>ミースの言説を分析し、その歴史的な変遷を見ることで、その建築理念の形成過程を分析</p> <p>コロンビア大学 客員研究員の1年の成果として提出アドルフ・ローエ、ミース・ファン・デル・ローエ、レム・コールハースの3者の時代精神とのかかわりを分析・考察</p>
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
<p>1. 紀伊の廻廊</p> <p>2. 紀伊の廻廊(審査あり)</p> <p>3. 大和棟の家(審査あり)</p> <p>4. 大和棟の家</p> <p>5. えいの里保育園</p>	<p>単</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>単</p>	<p>2022年1月19日</p> <p>2021年11月7日</p> <p>2017年5月31日</p> <p>2015年4月</p> <p>2012年4月1日</p>	<p>新建築住宅特集 2022年2月号</p> <p>第5回きのくに建築賞 佳作</p> <p>JIA(日本建築家協会)建築年鑑2017</p> <p>新建築住宅特集</p> <p>新建築4月号</p>	<p>この住まいでは、日常とは異なる時間を感じてもらうことを意図した。建物構成は中庭を廻る回廊形式とし、前室から中庭、メインホールである主楼へとつながる中心軸を夏至の日の出と冬至の日の入りの軸と一致させた。このことにより、この住まいは、日々表情を変える海と空を楽しみながら過ごす場であると同時に、一年に一度の特別な日のための建築となった。冬至の日、建物の正面に太陽が海に没するとき、この建物は沈みゆく陽光のためのゲートである。そして冬至の日没の数時間は住まい手にとってのかけがえのない特別なものとなる。</p> <p>作品「紀伊の廻廊」が、和歌山の風土と地域性に配慮した優れた建築として佳作に選定された</p> <p>この住宅は奈良の西、昭和30-40年代に沿線開発された住宅地に位置する。奈良地方に特有の民家形式である大和棟の形態を引用しながら今日の住まいを作り出した。</p> <p>かつての風景を再生するという意図から勾配など外観のフォルムやスケール感は伝統的な大和棟になった。一方で、架構や内部空間は今日の解釈を行った。従来の大和棟は急勾配の主屋と緩勾配の落棟という下屋根が上屋根に従属するような形であったが、この住宅では、重なり合う二つの屋根を等価に扱い、またその関係を空間化することで多様なスケールと多様な場を内包させることを意図した。</p> <p>この住宅は奈良の西、昭和30-40年代に沿線開発された住宅地に位置する。奈良地方に特有の民家形式である大和棟の形態を引用しながら今日の住まいを作り出した。</p> <p>かつての風景を再生するという意図から勾配など外観のフォルムやスケール感は伝統的な大和棟になった。一方で、架構や内部空間は今日の解釈を行った。従来の大和棟は急勾配の主屋と緩勾配の落棟という下屋根が上屋根に従属するような形であったが、この住宅では、重なり合う二つの屋根を等価に扱い、またその関係を空間化することで多様なスケールと多様な場を内包させることを意図した。</p> <p>明石市江井島地区に新設された保育園である。子供たちの日々の大半を過ごす保育園を「みんなですぐすおきなうち」と位置づけた。園庭をコの字型に囲む木造平屋を基本とし、そこに木造仮構の大屋根をかけることによって大きなうちとしてのイメージを象徴的に表現した。また、園庭側はすべて開口とし、軒先を大きく出すことによって、風の道を作り、夏場でも空調に頼らず快適に過ごせ</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
6. S Dレビュー鹿島賞（大賞）	共	2010年12月	鹿島出版会 S D 2010	る空間とした。 インターンシップの一環として、神戸大学大学院生を指導して作成した「解体足場の家」が模型及びドローイングによる建築展「S Dレビュー」の大賞に入選
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. ミース・ファン・デル・ローエのモンタージュとその空間表現		2008年2月	建築学会近畿支部 建築論部会講演会 日本建築学会	モンタージュの空間表現からミースの空間理念の特質を考察
2. 都市計画のオルタナティブを バルラーヘインスティテュートでのワークショップ「Form and the City」に参加して		2007年8月	新建築8月号	関西大学の大学院生とともに参加したロッテルダム建築ビエンナーレにおけるワークショップの活動を報告
3. ミースとモンタージュ表現		2005年9月	日独建築交流シンポジウム『Dreams of the Other彼岸の夢』神戸大学21世紀COEプログラム	ミースの空間理念を表現するものとしてのモンタージュに注目しその特質を分析
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2008年～現在	日本建築美術工芸協会			
2. 2007年～現在	日本建築家協会			
3. 2006年～現在	意匠学会			
4. 2005年～現在	大阪府建築士会			
5. 2003年～現在	日本建築学会			